

年内竣工を目指して

11年出水の音更川災復

再被害防止へ緻密な工程管理

帯広開建はこのほど、音更川左岸豊田9号地先災害復旧現場を報道機関に公開した。2011年9月の出水で堤防が一部流出した箇所を復旧状況と、災害を教訓とした同開建の新たな対応策を紹介する。

(帯広支社・柿元 瞬記者)

音更川は流域面積740平方キロ、幹線流路延長94キロの十勝川1次支川。石狩山地から畑作地帯や音更町木野市街を通って十勝川に注いでいる。出水は、11年9月2日から7日にかけて北上してきた2つの台風が道内各地にもたらした記録的な大雨によるもの。6日間の総雨量は、音更川上流のナイタイ観測所で平均年間降水量の約40%に相当する383ミリを記録した。多くの水位観測所で氾濫注意水位を超え、十勝川の帯広水位観測所では戦後2番目となる最高水位36・17メートルに上った。

9月7日朝、音更川の河岸が浸食され、堤防が一部流出していることを発見した。帯広開建は災害協定に基づく応急復旧工事を実施し、被害箇所を復旧させた。被害箇所は北土開発で4月に着工した。河道掘削や低水護岸、水制工、高水護岸、舗装、堤内排水、仮

たものを直すのが目的。一般的な工事とは異なり、不測の事故にも配慮しなければならなかったため、安全対策に神経をとがらせた。加えて8-9月は出水期であり、台風が本道を襲う恐れもある。仮堤防の設置など応急的な措置は施していたものの、河川堤防の機能が万全ではない状態で再び出水すると、被害が拡大するかもしれない。

帯広開建は、夏までに出水に対して、ある程度効果を発揮できるような工程計画の作成を現場代理人に指示。その結果、盆ごろには被災前と同等の機能を取り戻すことができた。帯広河川事務所の大串弘哉所長は「ことしは台風がなく、8、9月に大きな出水がなかったのが良かった」と胸をなで下ろす。

現場代理人の晝間由生さんは「非常にイレギュラーな現場」と表現。「被災した箇所は、8割強。舗装と堤内排水、仮堤防の撤去を残すのみで、仮堤防の撤去は月内に完了する予定。工期は13年1月までだが、順調に行けば年内には竣工できる見通しだ。

帯広河川事務所の甲岡宏次工務課長は「相当な出水がない限り、この箇所が再度被災することはないと復旧に自信を見せる。

帯広開建は災害を教訓に河川巡視体制を強化。災害時の河川巡視は、職員だけでは足りず、被災箇所の発見が遅れることから、応急復旧に当たる建設業者もパトロールできるように災害協定の内容を見直した。

また、年内の立案を目指して、学識者や研究機関と共に音更川の新たな河岸浸食対策を検討中。音更川が再び被災しないよう、新たな計画の下で今後対策を進める。

帯広開建 現地レク

この工事は、災害により壊れた堤防の撤去などが主な内容だ。



堤防は完成した。舗装や仮堤防の撤去などが進められている